



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

[大分県立病院ウェブサイトはこちら](#)

## 婦人科

## 婦人科がんの新しい治療

子宮体がんの再発治療に、従来の抗がん剤に加えて分子標的薬(レンバチニブ)と免疫チェックポイント阻害剤(ペムブロリズマブ)の併用療法ができるようになりました。免疫チェックポイント阻害剤はいわゆる免疫療法のひとつです。



子宮体がんは早期に発見された場合には根治できる可能性が比較的高いがんですが、進行した状態の子宮体がんや再発治療では有効な薬剤が少なく、治療の効果も芳しいものではありませんでした。現在、MSI-highという遺伝子検査異常のある固形がんの患者さんではペムブロリズマブが適用されていますが、最近の国際的な臨床試験で子宮体がんでは遺伝子変異にかかわらずレンバチニブとペムブロリズマブの併用療法の効果が高いことが示され、日本でも保険で治療できるようになりました。ペムブロリズマブは3週毎あるいは6週毎に1回点滴で投与し、レンバチニブは毎日1回内服します。これを繰り返していく治療です。その効果は従来の抗がん剤と比較して有意に高いことが示されており、また効果の持続期間も長いことが分かりました。高い有効性の一方で副作用も軽症から重症まで高頻度に見られることも示されており、投与中は十分な観察が必要です。

この治療方法は他のがんでもその効果について試験が行われており、今後適用される疾患が増えることが期待されます。

(がんセンター婦人科 部長 島本 久美)



※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

# 切迫性尿失禁のお話

生活上でお困りの症状はありませんか？急に強い尿意を感じ、トイレに間に合わず尿がもれてしまうことを『切迫性尿失禁』といいます。水に触れたり、音を聞いたりした時、ドアノブに手をかけた時に我慢が出来ない尿意から尿もれが生じるという特徴があります。切迫性尿失禁の治療にはお薬が有効です。一人で悩まずに、一度病院にご相談ください。お薬と自分でできる改善法を組み合わせるとより効果的です。今回は、自分でできる改善法についてご紹介します。

## 自分でできる改善法のポイント

### 水分の適切な摂り方

1日水分摂取量は約1.2L摂取しましょう。

睡眠3時間前水分摂取は控えましょう。

カフェインを含む飲料(コーヒー、濃い緑茶など)は控えましょう。

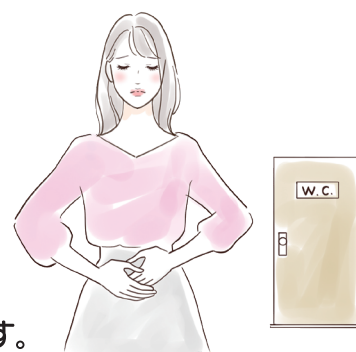
### 膀胱のトレーニング

もれるのが心配で、尿意を感じないのに“あらかじめ”トイレに行くという癖がついてしまうと、膀胱が勝手に縮み過敏な動きをするため、うまく尿をためられなくなってもれてしまいます。適度におしっこをためる習慣をつけることが大切です。

#### 【トレーニングの方法】

はじめは自宅にいる時から始めましょう。

- ①トイレに行きたくなくても、まずは我慢します。
- ②最初は2～3分、次に5分くらいを目標に、いよいよ我慢が出来なくなったというタイミングでトイレに行くようにするトレーニングを1週間程度続けます。
- ③少しずつ我慢する時間を10分、15分と延ばしていき、1時間程度我慢できるようになればトレーニングの目標は達成です。



### 骨盤底筋体操

(県病医療ニュース 2020年5月号をご覧ください。)

(皮膚・排泄ケア認定看護師 津崎 郁弥)



看護師ほか医療スタッフの  
臨時職員を募集しています。  
詳しくはこちら